



中川 あゆこ 議員

子ども家庭総合支援拠点
について

問

子ども家庭総合支援拠点の役割
とビジョンはどのようなものか

答

妊娠期の妊婦や0歳から40歳までの子ども・若者支援を一元的に行う高島市独自の「子ども家庭センター」と位置付ける予定です

問

子ども家庭総合支援拠点の役割とビジョンはどのようなものか。

答

子ども未来部長

す複雑化しており、児童人口は減少している反面、相談件数はどの相談機関においても増加傾向にあります。課題としては、相談機関や支援機関はたくさんあるものの、相談先が分かりにくい、また、相談機関側としても、困難ケースではどの機関が対応することが適切なのか判断に困る場合があります。



妊娠期の妊婦や0歳から40歳までの子ども・若者支援を一元的に行う高島市独自の「子ども家庭センター」と位置付ける予定です。建物内には、地域福祉や困窮者支援を担う「社会福祉協議会」の本部機能があり、「教育相談・課題対応室」や「結びと育ちの応援団」も移転してくる予定です、隣接している「児童発達支援セ



ンターエール」とあわせて、子ども若者に関する「相談モール」としてつくビジョンを描いています。

問 施設内にはどのような設備があるのか。

答 子ども未来部長

学習支援を行うための学習スペース、食事の提供や調理体験を行うためのシステムキッチン、生活リズムやメンタルの調整のための相談室や入浴設備・洗濯設備、屋外活動ができるデッキなどを整えています。

問 児童の福祉とはどのようなことか。

答 子ども未来部長

例えば、公的な援助やサービにより、幸福な生活環境を作り出していくことだと思います。

問 高島市の子ども家庭支援体制の現状と課題について伺う。

答 子ども未来部長

現状、これまで市では、妊娠・出産、子育て、発達課題、不登校、いじめ、非行、児童虐待、生活困窮などの課題に対応する部署や相談機関を整えてきました。子ども若者支援については、40歳までの若者支援の窓口を平成23年度に県内で初めて設置し、福祉分野との連携強化のため、平成31年度に教育委員会から子ども未来部に所管替えし、各種施策に取り組んでいます。子どもを取り巻く環境はますます

その他の質問

高島市政20周年記念事業について